

説明（指導者用）

はじめに、キャラクターづくりに使う自然の材料を探しに行きます。枝や木の実、葉っぱ、樹皮、小石など、「これが目になりそう」「これは髪の毛みたいだな」と思うものを見つけてみましょう。ただし、使うのは地面に落ちているものだけにします。生えている植物をちぎったり、折ったりすることはしません。自然の中から少し分けてもらう、という気持ちを大切にしながら材料を集めてください。

材料がそろったら、丸太をよく見て、よく触ってみましょう。木の断面には丸い線がいくつも重なっています。これは「年輪」といって、木が一年にひとつずつ成長してできる模様です。年輪の数は、その木が生きてきた時間のしるしです。線の広がり方や色の違いを、じっくり観察してみてください。

そっと鼻を近づけると、木の自然なおいを感じられるかもしれません。森の中にいるような、いいにおいがするかもしれません。手のひらで触ってみると、ざらざらしたところやすべすべしたところなど、さまざまな感触があります。

次に、やすりを使って丸太の表面をなめらかに整えます。削ると木の粉が出て、香りがさらに広がります。丸太をしっかり押さえ、まわりの人に気をつけながら安全に作業をしましょう。

表面が整ったら、丸太をからだや顔に見立てていきます。年輪や木目、節の形をよく見ると、目や口のように見えてくることもあります。「どんな表情かな」「どんな性格かな」と想像をふくらませてみましょう。作るものが決まったら目玉シールを貼ります。目の位置や向きによって、やさしい顔にも、元気な顔にも変わります。枝や木の実などを組み合わせて、鼻や口、髪の毛、手足などを表現してみてください。

つける場所が決まったら、グルーガンで接着します。ここからは、順番を守って使いましょう。

まず、グルーガンをコンセントにさすとグルーガンの先が温まります。次に、接着したいパーツを手元に準備し、どこにつけるのかをあらためて確認します。そのあと、グルーガンの先端を接着したい部分に向け、引き金をゆっくり引いて必要な量だけグルーを出します。出しすぎないように注意しましょう。

グルーをつけたら、すぐにパーツを押し当て、数秒間しっかりと押さえます。このとき、出たばかりのグルーや金属の先端はとても熱いので、直接触らないようにしてください。もし不安なときは、必ずスタッフに声をかけましょう。

接着が終わったら、グルーガンは必ず決められたスタンドや置き場所に戻します。使う人がいなければコンセントを抜きましょう。

この時間は、作品をつくるだけでなく、自然を観察し、においを感じ、手ざわりを味わう時間でもあります。自然への思いやりを忘れずに、自由な発想で、世界にひとつだけの丸太のキャラクターを生み出してください。